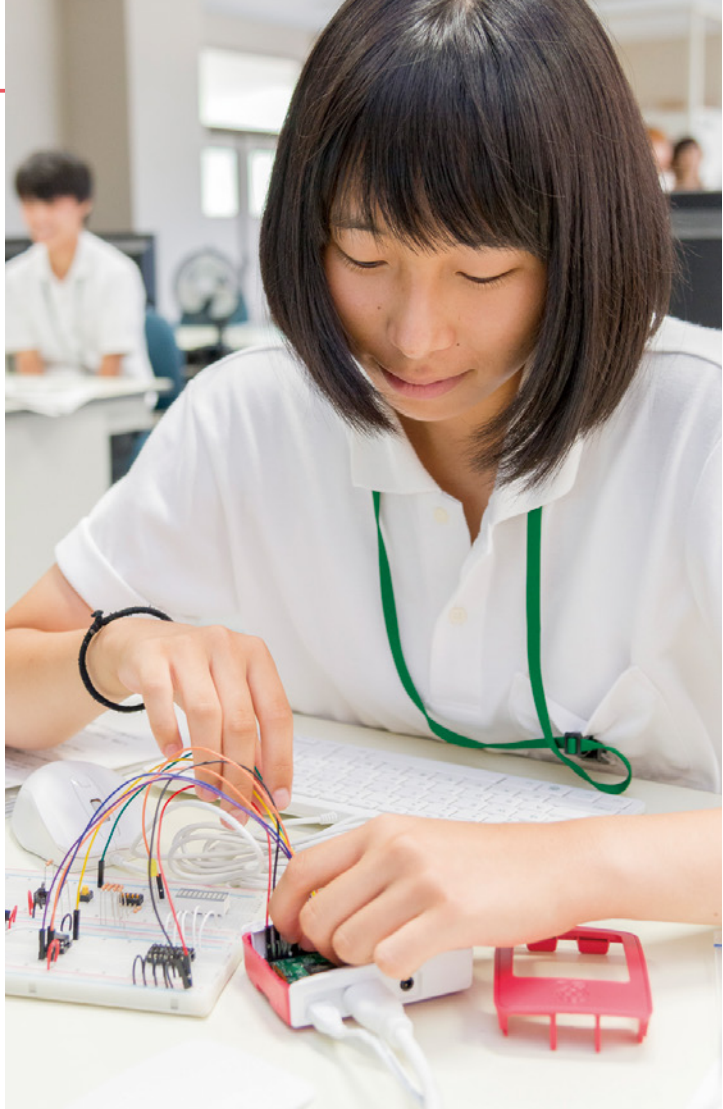


ものづくりマインドを育む環境づくり



小型コンピューター・ラズベリーパイと電子回路の接続を確認(右)
自由落下のシミュレーターを作成(左上)
数値制御工作機械の説明を熱心に聞く(左下)

山梨のものづくり産業を担う人材を育成している県立産業技術短期大学校では、ものづくりの魅力を多くの若年層に広げていくために、高等学校との情報交換や体験講座などの連携事業、また、小中学校への出張講座など多くのプログラムを実施しています。

**専門分野への興味を深め
将来の目標につながる体験講座**

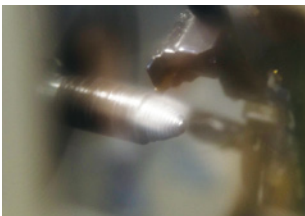
県立産業技術短期大学校では、県内の高校生に、ものづくりへの関心を高めてもらうため、各学科の特色を生かした体験講座をキャンパス内で実施しています。今回は、将来、科学技術分野へ進みたいと思っている県立日川高等学校のスーパーサイエンスハイスクール(S S H)の1年生35人が、3コースに分かれて受講しました。

生産技術科による機械工学コースでは、数値制御工作機械を使用して金属の加工を行いました。機械を動かす数値制御方法について詳しく学ぶことで機械分野に興味を持った生徒は「人と機械との橋渡しをするプログラミングが正確であれば、熟練を要する加工を高速で簡単にできることが分かり、ものづくりの楽しさを感じました」と、仕上がった部品を手に話してくれました。



金属加工が容易にできる数値制御工作機械をのぞき込む生徒たち(上)
生徒たちがプログラミングしたデータにより、機械部品が作られていく様子(左)

電子技術科によるエレクトロニクスコースでは、小さいながらもパソコンと同等の性能を有するコンピューター・ラズベリーパイを使って、電子技術の両輪となるハードウェアとソフトウェアの基礎を学びました。パソコンと違い外部の電子回路と





世界を舞台に活躍する若き人材の育成

山梨の産業というと、まず果樹に代表される農業や観光業を思い浮かべる方が多いと思いますが、業種別構成比では、製造業の比率がとて高いのです。しかし県内の企業では、現在、技術者不足が大きな課題となっています。

本校は、山梨の産業をけん引するものづくりの分野で活躍できる高度な技術や幅広い専門知識、そして豊かな創造力を備えた人材を育成しています。技術者育成というと、工業系高校出身の学生ばかりと思うかもしれませんが、出身学科にかかわらず誰でも必ずキャリアが身に付くカリキュラムを組んでおり、現在、塩山キャンパスでは、普通科出身の学生が半数を超えています。より多くの高校生に、ものづくり産業に興味を持ってもらうために、県内の高校の先生方と情報交換を行ったり、高校生を対象



県立産業技術短期大学校
教務学生課 大瀬 裕之 課長

とした体験講座を実施したりしています。また、小中学生を対象に、ものづくりの魅力を伝える取り組みも行っています。

世界に通用する高い技術を持った素晴らしい企業がある山梨は、日本の産業をリードする存在になり得る大きな力を持っています。この先、リニアが開通すれば、さらなる発展が見込まれることでしょう。若い方には、早いうちから、ものづくりに興味を持ってもらい、山梨の産業の未来を切り開いてほしいと願っています。

県立産業技術短期大学校 オープンキャンパス

12月3日(日) 午前10時～正午

- 内容 学校・学科の概要説明、体験実習、在学生との交流など
- 申込方法 電話(0553-32-5201)またはメールで教務学生課まで

山梨 産短大



塩山キャンパス
住所：甲州市塩山上於曾1308 TEL:0553-32-5200



都留キャンパス
住所：都留市上谷5-7-35 TEL:0554-43-8911

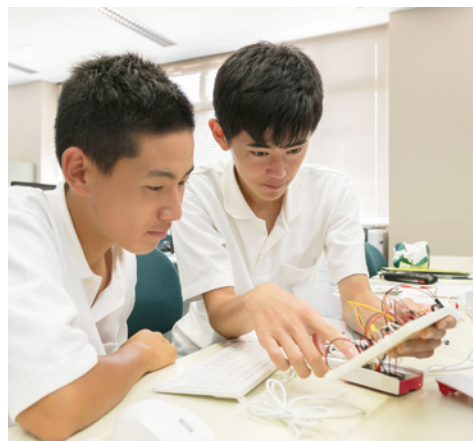
実践的な学びは、生徒たちの夢へとつながります



県立日川高等学校
SSH推進係 青野 孝文 教諭

県立日川高等学校はスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されていますので、科学技術に関する実習を行っています。自分たちの身近なところから課題を発見解決していく力を高めるために、今回、本校からも近く実践的な学びを提供して下さる県立産業技術短期大学校に体験講座をお願いしました。

今日の体験講座は、将来の職業に直結する内容だったと思います。1年生のうちに自分の将来像を描いたり、地域の産業について学んだりすることはとても大切です。生徒たちには、ここから夢を膨らませていてもらいたいですね。



接続の最終チェックをする真剣な表情

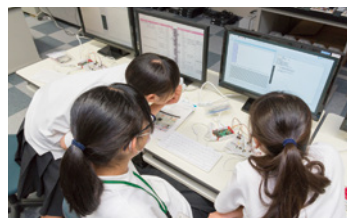
簡単に接続を行うことができるラズベリーパイの特長を理解した生徒は「将来、コンピュータープログラミングに関わる仕事がしてみたい」と夢を語ってくれました。

情報技術科によるICTコースでは、プログラミングの基本的な考えを学んだ後、画面上にアニメーションをつくり自由落下の原理を理解しました。

「学校の授業で学んだことが、今日は一人一台のパソコンを使って学ぶことができ、とても

分かりやすかったです。将来は、情報分野に進みたいです」と生徒たちは充実した表情で話してくれました。

高校生が県立産業技術短期大学校へ出向き、パソコンなどに触れながら実習をしたり、専門知識や高度な技術・技能に触れたりすることは、将来の進路について考える有意義な機会となりました。



みんなで意見を出し合い、プログラミング



「黒板に書かれた数式だけでなく、目の前にあるパソコンを使って学べることがいい」と話す生徒